



イマジン ローター

RI会長 ジェニファー・ジョーンズ

2022-2023年



Rotary District 2640 JAPAN

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

海南東ロータリークラブ

会長 中村 俊之 幹事 千賀 知起 SAA 田中 淳

第 2139 回例会

2023 年 5 月 21 日 (日)

家族例会

兵庫県神戸市方面 日帰りバス旅行

1. 開会点鐘

2. 出席報告

会員総数 44 名 出席者数 24 名 家族 15 名
出席義務規定適用免除会員 3 名
出席率 58.54% 前回修正出席率 60.98%

3. 会長スピーチ



会長 中村 俊之 君
皆さんこんにちは。平素は我々ロータリーの活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。

本日、毎年恒例の家族例会を開催したところ40人と多くの会員、ご家族の方に参加いただき感謝申し上げます。このようにたくさんのロータリーファミリーが集うまたとない機会となっております。今日1日、奥様やお子様、ご家族どうしでより一層親睦を深めていただけるよう望んでいます。

午前中の酒蔵見学は楽しんでいただけたでしょうか？ 今の朝ドラでも高知の酒蔵が舞台となっており、お子様にはお酒を造る過程を生で見させていただく貴重な体験をしていただけたのではないかと思います。また、大人の方々は見学の方は程々に試飲やお買い物で楽しんでいただけたのではないのでしょうか。

午後からは今いるこの客船にてお食事と素晴らしい景色の遊覧を楽しんでいただき、残った時間を神戸市内にて自由行動で過ごしていただく予定となっております。この後も楽しんでいただき素晴らしい記念に残る1日としていただければ幸いです。

結びに、この素晴らしい家族会を企画していただいた親睦委員会の皆さんに感謝申し上げるとともに、この家族会を誰よりも楽しみにしていた療養中の奥親睦委員長の1日も早い回復、また本日参加していただいた皆様の今後ますますのご健勝を祈念

いたしまして、会長挨拶とさせていただきます。

5月8日に、新型コロナウイルスが2類から5類に変更されるなど、徐々にではありますがコロナ前の生活を取り戻し。先のゴールデンウィークにも旅行やゴルフ、久しぶりの友人との会食など数年ぶりに満喫された方も多くいらっしゃるのではないかと思います。

4. 幹事報告 特になし

5. 家族例会



四つのテスト 旅行はこれに尽してか

① 真実かどうか ② 好意と友情を深められるか
③ みんなに公平か ④ みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002
海南市日方 1294 (海南商工会議所 4F)
TEL:073-483-0801 FAX:073-483-2266



6. 閉会点鐘

5月は青少年奉仕月間です

次回例会

第 2140 回 2023 年 6 月 5 日(日)

19:00～ 海南商工会議所 4F

夜間例会 お誕生日、結婚記念日のお祝い



メルボルン（オーストラリア）で開催のロータリー国際大会では、ノーベル平和賞受賞者と 10 歳の環境活動家が講演し、より平和な社会を築き、気候変動と立ち向かうためのインスピレーションを参加者に与えます。

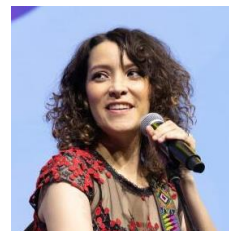
メルボルンの街や地元のロータリー会員が計画したイベントを楽しむと同時に、ロータリーが力を入れている平和の推進、環境の保護、ポリオの根絶といった分野でインパクトをもたらしている人たちの講演が多数行われます。

リベリアの平和活動家、ソーシャルワーカー、女性の権利擁護者であるレイマ・ボウイ氏は、戦争のない未来という夢が平和についての新たな理解にどのようにつながったかを語ります。「平和とは単に戦争のない状態ではなく、私たち全員に尊厳を与える状況があること」と述べたボウイ氏は、リベリアでの 10 年以上に及ぶ内戦中、難民キャンプで暮らし、子ども兵のカウンセラーとして働いた経験があります。「機会が与えられないがために夢が叶えられないという状況があるうちは、平和な社会を語ることはできません」

ボウイ氏は、より良い世界への夢が、Women of Liberia Mass Action for Peace を始めるきっかけとなったと話しました。内戦を終結に導いたこのキャンペーンによって、ボウイ氏は 2011 年ノーベル平和賞を受賞しました。

「私たちには叶えたい夢がある一方、それぞれの夢はほかの人の夢につながっています。私たちの夢は虹のように、この世界で見たいと願う希望の光なのです」とボウイ氏は語り、参加者に「平和で安全な世界を実現させる」ことを促しました。

このほかの講演や分科会では、平和と気候変動の接点を取り上げられました。10 歳の気候変動活動家で詩人、Climate Vulnerable Forum の青少年大使でもあるナキーヤ・ドラマニ・サム氏は、自作の詩を朗読します。



自身の詩は「土地の劣化、干ばつ、台風など、世界的に急速なスピードで起こっている異常気象の増加」を歌ったものだと話し、次のように問いかけました。「この詩、この対話、この物語は問いを投げかけています。私たちは加速する気候変動を乗り越えられるでしょうか」

別の分科会では、ロータリー平和フェローらが環境ストレスに悩まされている世界で平和を築く取り組みについて話し合いました。クイーンズランド大学の 2021-22 年度平和フェローであるクリスタ・カーシェンハイター氏は、自身が育ったマリアナ諸島を壊滅的な台風が襲った後に平和構築について学ぼうと決めたことについて話します。

「人びとは助けたいと願い、支援する方法もたくさんありますが、本当に必要なのは現地の人たちの声に耳を傾け、危機への対応方法を理解すること」とカーシェンハイター氏。「太平洋地域がこのような問題に直面しているという事実を知ってもらう必要があると思いました。これが私が平和フェローになった理由です。気候変動に関するこれらの問題への対応方法をもっと学びたいと思いました」

